	もくじ	今回 (#03) の内容: シラバスでの該当部分
#03 基本型 2022年度 / プログラミング及び実習 III 角川裕次 ^{服谷大学 先端理工学部}	 第7-1 節 基本型と数 第7-2 節 整数型と文字型 第7-3 節 浮動小数点型 第7-4 節 演算と演算子 	小テーマ: 基本型 第 5 回:データ型と sizeof 演算子
1/68 重要概念リスト	2/68 今回の実習・課題 (manaba へ提出)	3/68
■ short, int, long ■ signed と unsigned ■ sizeof 演算子 ■ size_t 型 ■ typedef 宣言 ■ ■ ■ climits.h> ヘッダ ■ float, double, long double ■ <math.h> ヘッダ ■ 2 の補数表現 ■ IEEE 754 浮動小数点 ■ 演算子の優先度と結合性 ■ 型変換</math.h>	実習内容と課題内容は講義途中に提示します (作成したファイル類は manaba に提出)	第 7-1 節 基本型と数
4/68	5/68	6/68

算術型と基本型 p.182		算術型:多くの型の総称	基数 p.183
算術型 (arithmetic type): 算術演算が定義され ■ 加算や乗算など ■ int 型 や double 型などの変数や定数 基本型 (basic type): 型名キーワードだけで表 ■ 文字型 (char) ■ 整数型 (int) ■ 浮動小数点型 (double)		Fig. 7-1 算術型	数値を表す際の各桁の重み付けの基本となる数のこと 10 進数: わたしたちが日常使っている数の表記法例: "西暦 2021 年" 「数」2021 を「文字(数字)」を使って書き表している ・使用する文字は10種類: 0, 1, 2,, 9 コンピュータシステムを対象とする場合は2進数, 16進数が便利 2 進数:数字0と1を使用(2種類) ・表記の際の桁数は多い(1桁が表現するのは1ビット) ・ビット単位で数値を表現するためハードウエア制御で便利 16 進数:数字0, 1,, 9, A,, Fを使用(16種類) ・表記の際の桁数が少なくて済む(1桁が表現するのは4ビット) ・メモリアドレスの表記など便利
数の表記の対応表		基数变换 p.184	文字の列から数への変換 (1)
2 進数 10 進数 16 進数 0 0 0 1 1 1 10 2 2 11 3 3 100 4 4 101 5 5 110 6 6 111 7 7 101 11 7 1000 8 8 1001 9 9 1001 9 9 1010 10 A 1011 11 B 1100 12 C 1110 14 E	00 16 10 10 11 11 11 10 18 12 11 19 13 00 20 14 15 10 22 16 11 23 17 00 24 18 01 25 19 10 26 1A 11 27 1B 00 28 1C 01 29 1D	2 つの概念が微妙に混在: 「文字(数字)の列」と「数」数: 抽象概念 ■ 数の集合:無限集合(数は無限通り存在) ■ 数は任意に大きな値をとりうる 文字(数字)の列: 記号の列 ■ 使用する記号の集合: 有限集合(有限個数の記号を使用) ■ 列は有限長 以下のように 2 つを区別(カギ括弧を使用) ■ 数: 1234 ■ 文字の列:「1234」 (教科書では区別ができてないので注意)	例: 10 進数で書かれた文字の列「1998」が表す数を求める 10 進数で「1998」が表す数 = 「1」×10³+「9」×10²+「9」×10¹+「8」×10⁰ = 1×10³+9×10²+9×10¹+8×10⁰ = 1998 表す数は各桁の重み付きの和 ■ 第 i 桁には重み 10 ⁱ (10 進数) ■ 第 0 桁は右端の桁

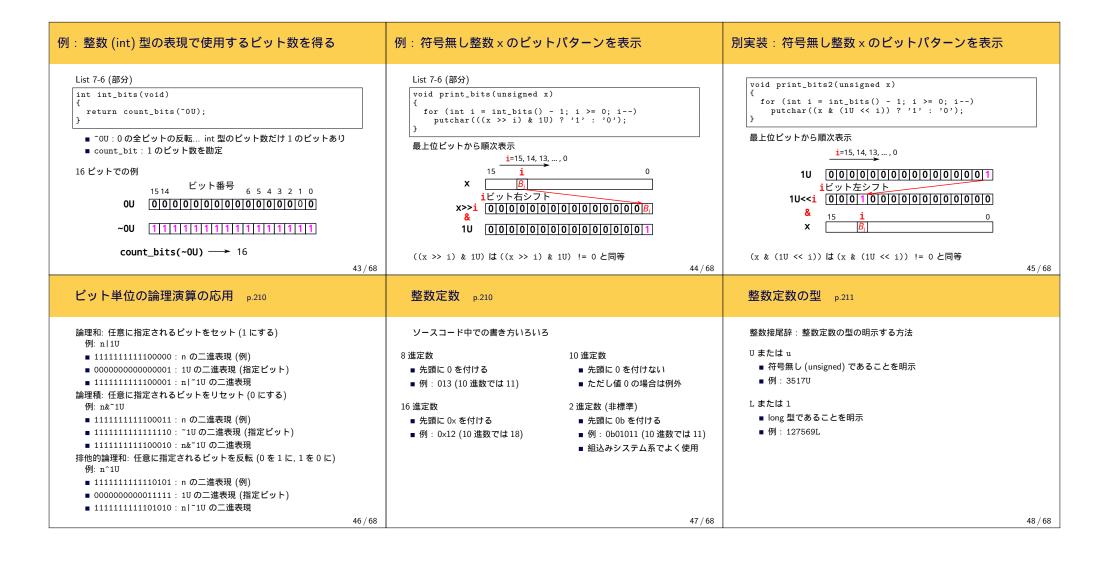
文字の列から数への変換 (2)	文字の列から数への変換 (3)	数から文字の列への変換:考え方
例:16 進数で書かれた文字の列「1FD」が表す数を求める	例:2 進数で書かれた文字の列「101」が表す数を求める	例:509 を 16 進数で書くと「1FD」
16 進数で「1FD」が表す数 $= 「1」× 162 + 「F」× 161 + 「D」× 160$ $= 1× 162 + 15× 161 + 13× 160$ $= 509$ 表す数は各桁の重み付きの和 ■ 第 i 桁には重み 16 ⁱ (16 進数)	2 進数で「101」が表す数 $= 「1」× 2² + 「0」× 2¹ + 「1」× 2⁰$ $= 1× 2² + 0× 2¹ + 1× 2⁰$ $= 5$ 表す数は各桁の重み付きの和 ■ 第 <i>i</i> 桁には重み 2 ^{<i>i</i>} (16 進数)	509 = (32 × 16) + 13 = 1 × 16² + 15 × 16¹ + 13 × 16⁰ = 「1」が表す数 × 16² + 「F」が表す数 × 16¹ + 「D」が表す数 × 16⁰ = 「1F」が表す数 × 16¹ + 「D」が表す数 = 「1FD」が表す数 観察ポイント: 数を 16 で割った余りで 16 進数で書いたときの右端の桁の数字が分かる ■ k 進数の場合: k で割った余りで右端の数字が分かる
13/68	14/68	15 / 68
数から文字の列への変換方法	数から文字の列への変換の例	
パラメータ ■ n:表記したい数 ■ b: 基数 (2, 8, 10, 16 など) 変換の手順 ■ nを 16 で割った余りを計算: 右端から 0 番目の桁の数字が決まる ② n = n / 16 ③ nを 16 で割った余りを計算: 右端から 1 番目の桁の数字が決まる ④ n = n / 16 ⑤ nを 16 で割った余りを計算: 右端から 2 番目の桁の数字が決まる ⑥ n = n / 16 … n = 0 になれば終了	n = 509, b = 16 (16 進数) の場合 変換の経過 In = 509 In = 509 In を 16 で割った余りは 13: 右端から 0 番目の桁の数字は「D」 In = n / 16 = 31 In を 16 で割った余りは 15: 右端から 1 番目の桁の数字は「F」 In = n / 16 = 1 In を 16 で割った余りは 1: 右端から 1 番目の桁の数字は「1」 In = n / 16 = 0 In = n / 16 = 0 In = 0 になったので終了 16 進数表記は「1FD」	第 7-2 節 整数型と文字型
16/68	17/68	18/68

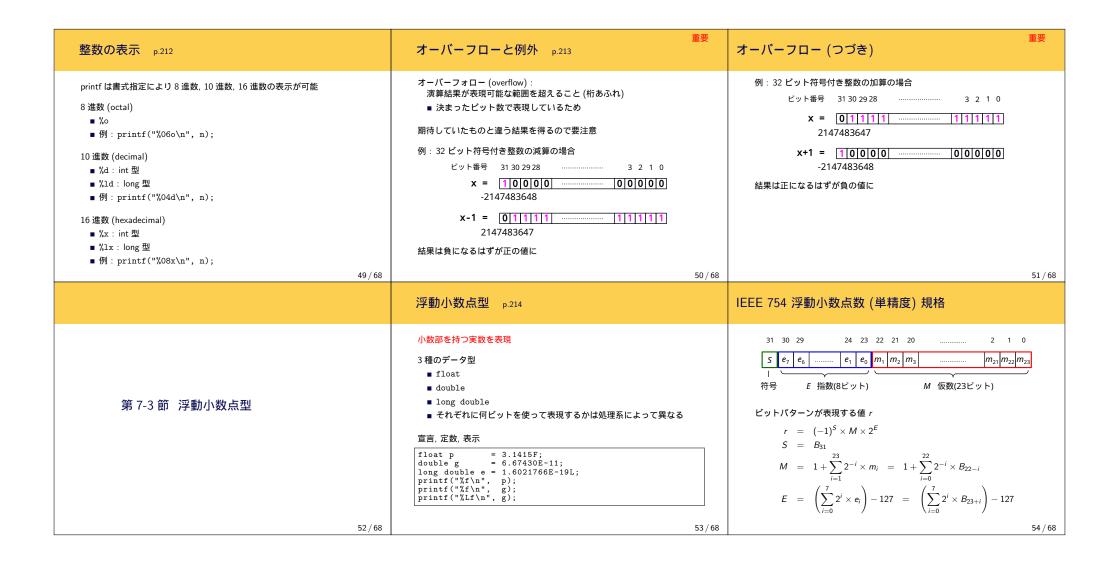
重要 整数型 (integer type) と文字型 (character type) p.186 表現できる値の範囲による4種類の型 型の短縮名 有限範囲の連続した整数を表現する型 型名を厳密に書くと入力の文字数が増えて面倒くさい char short int int. long int ■ 符号の有無により 2 種類に分類 短縮名の導入 ■ 例:正式な型名 signed int を短縮して int と書ける (それぞれに符号付き版と符号無し版あり) 符号無し整数型 (unsigned integer type) 非負の整数を表現 Table 7-1: 文字型・整数型の名称と短縮名 Fig.7-6:整数を表す型の分類 char ■ 型指定子 unsigned を付ける 文字型 signed char ■ 変数宣言の例: unsigned int z; 符号付き整数型 符号無し整数型 unsigned char 文字型 signed short int signed short short signed char unsigned char 符号付き整数型 (signed integer type) char int unsigned short unsigned short 整数型 非負と負の整数を表現 int signed short int unsigned short int ■ 型指定子 signed を付ける (省略可) signed int signed int signed int 整数型 unsigned int unsigned int unsigned ■ 変数宣言の例: signed int y; signed long int signed long long int long signed long int unsigned long int ■ 変数宣言の例: int x: unsigned long int unsigned long 19 / 68 21 / 68 数値は処理系でいるいる 整数型の使い分け。188 limits.h>ヘッダ p.189 int 型:実行環境で一番扱いやすく高速に演算できるビット数を採用 文字型と整数型の数値の範囲をマクロ記号で定義するヘッダ 教科書での想定 最小値 最大値 記号 値 備考 short 型:メモリサイズを節約したい時 char CHAR MIN CHAR MAX INT_MIN -32768 int の最小値 long 型:広い範囲の数値を扱い時 unsigned char UCHAR, MAX INT_MAX 32767 int の最大値 signed char SCHAR_MIN SCHAR_MAX ■ 処理系毎に異なる LONG_MIN -2147483648 long の最小値 SHRT_MIN SHRT_MAX short ■ sizeof(short) ≤ sizeof(int) ≤ sizeof(long) に注意 LONG_MAX 2147483647 long の最大値 int INT_MIN INT_MAX ■ sizeof(short) = sizeof(int) = sizeof(long) の場合もあり LONG_MIN LONG_MAX unsigned short USHRT_MAX Ubuntu x86_64 (64 ビット) の cc unsigned int UINT MAX 記号 値 備考 ULONG_MAX unsigned long -2147483648 int の最小値 INT_MIN 重要: 具体的な数値の定義は言語処理系で異なる場合あり 2147483647 int の最大値 INT_MAX -9223372036854775808 longの最小値 ■ 自分のところで調べた値が他所で通用するとは限らない LONG_MIN LONG_MAX 9223372036854775807 long の最大値 ■ 可搬性を考えたソースコードを書くことを心がけよう Q. いくつかの最小値のマクロ記号が未定義なのはなぜ? 23 / 68 22 / 68 24 / 68

文字型 p.190	ビットと CHAR_BIT p.192	sizeof 演算子 p.192
文字を格納するための型 3通りの型 char (符号付きか符号無しかは処理系で異なる) unsigned char (符号無し文字型) signed char (符号付き文字型)	コンピュータ内でのデータ: ビット (bit) の組み合わせで表現 マクロ CHAR_BIT 文字型 char が記憶域上で専有するビット数 定義の 1 例: #define CHAR_BIT 8 具体的な数値は処理系によって異なる (ただし少なくとも 8)	 データの記憶に用いるメモリサイズ (パイト数) を得る演算子 例: int型のパイト数を得る isize = sizeof(int); ■ 値は処理系によって異なる ■ ただし char型のサイズは必ず 1(パイト) 存在意義:処理系での実際のデータサイズを得る ■ その値に応じたプログラムコードを書ける ■ ボータビリティ:ソースコードをのままで様々な環境で動作可能なこと C 言語の規格により以下の関係が成立 sizeof(short) ≤ sizeof(int) ≤ sizeof(long)
25 / 68		27
size_t 型と typedef 宣言 p.194	配列の要素数の求め方 p.196	符号無し整数の内部表現 p.198
typedef 宣言: 既存の型の同義語を作る 例: 新たに size_t 型を作る (unsigned 型と同義) typedef unsigned size_t; 例: 定義した size_t 型で変数を宣言 size_t isize = sizeof(int); 一般的な構文 typedef 型A型B;	List 7-5 int main(void) { int a[5]; double x[7]; printf("配列aの要素数=%zu\n", sizeof(a)/sizeof(a[0])); printf("配列xの要素数=%zu\n", sizeof(x)/sizeof(x[0])); return 0; } 説明 sizeof(a) 配列a全体のパイト数 sizeof(a[0])	ビットパターン B_0, B_1, \dots が表す数値 n $n = \sum_{i=0}^{n-1} B_i \times 2^i$ $\blacksquare B_i : 第 i ビットの値 (0 または 1)$ $\blacksquare 第 i ビットの重みは 2^i B_{n-1} B_{n-2} B_{n-3} $
■ 型 A:既存の型名 ■ 型 B:新たに定義する型 (型 A と同義)	配列 a の 1 要素のバイト数 sizeof(a)/sizeof(a[0]) 配列 a の要素数	



シフト演算 p.204 シフト演算: 右論理シフト シフト演算: 右算術シフト 例: 4 ビット右へ (算術) シフト (正の数の場合) 整数が符号無し/符号ありで論理シフト/算術シフトの区別あり 右論理シフト signed int a = 01000111110101011 a << b: a を b ビット左へシフトする a >> b:aをbビット右へ(論理)シフトする a>>4 = 000000001001111110110例:4ビット左へシフト 例:4ビット右へシフト a = 000000111110101011 例: 4 ビット右へ (算術) シフト (負の数の場合) a << 4 = 011111010101110000signed int a = 10000111110101011a>>4 = 0000010000111110010a>>4 = 1111111000001111110110 ■ はみ出したビットは捨てられる ■ 右からは0が入る ■ はみ出したビットは捨てられる 右算術シフトの性質:1ビットシフトした値は元の値の1/2倍 ■ 左からは 0 が入る 性質:1ビットシフトした値は元の値の2倍 ■ 重要点:正負の符号も保存 ■ (オーバーフローしなければ) 右論理シフトの性質:1ビットシフトした値は元の値の1/2倍 ■ (小数は切り捨て) ■ (小数は切り捨て) 37 / 68 38 / 68 39 / 68 シフト演算:右算術シフト(つづき) bit_count の動作の図解 例: 整数中の1のビット数を勘定 List 7-6 (部分) 右算術シフト int count_bits(unsigned x) 1U = 0000000000000000000a >> b: a を b ビット右へ (算術) シフトする int bits = 0: & ' ■ はみ出したビットは捨てられる while (x) { if (x & 1U) bits++; bits ■ 符号ビットが 0 のとき: 左からは 0 が入る $00000000000001011 \rightarrow 1$ x = x >> 1;■ 符号ビットが 1 のとき: 左からは 1 が入る x=x>>1return bits; $000000000000000101 \longrightarrow 2$ x=x>>1■ while 文:xが0ならもうxには値が1のビットはないので終了 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 ■ if (x & 1U): x の第 0 ビットが 1 ならカウント (bits++) x=x>>1■ 1U: 符号無し整数1を表す x=x>>1■ x = x >> 1:xを1ビット右へシフト 00000000000000000 教科書の内容 x >>= 1; は x = x >> 1; と同等 41 / 68 42 / 68 40 / 68





浮動小数点定数 p.216 <math.h> ヘッダ: 各種の数学関数を宣言 p.217 List 7-11: 平面上の 2点間の距離を計算 p.217 #include <math.h> みなさん頻繁に使うはず 定数として数値そのものをプログラムコード中に書く方法 #include <stdio.h> ■ sqrt (平方根) 型を明示する方法 (無指定 / f, F / I, L) /*--- 点(x1,y1)と点(x2,y2)の距離を求める ---*/ double dist(double x1, double y1, double x2, double y2) ■ fabs (絶対値) ■ 57.3 — double 型 return sqrt((x2 - x1) * (x2 - x1) +■ 57.3F — float 型 ■ cos, sin, tan (三角関数: 余弦, 正弦, 正接) (y2 - y1) * (y2 - y1)); ■ 57.3L — long double 型 ■ log, log10 (対数) ■ exp, pow (指数) int main(void) 指数表記 ■ ceil, floor (天井, 床) ■ 1.23E4 — 1.23 × 10⁴ を表す double x1, y1; /* 点1 */ ■ acos, asin, atan, atan2 (逆三角関数) double x2, y2; /* 点 2 */ printf("2点間の距離を求めます。\n"); ■ 89.3E-5 - 89.3 × 10⁻⁵ = 8.93 × 10⁻⁴ を表す cosh, sinh, tanh printf("点1...X座標:"); scanf("%1f", &x1); printf(" Y座標:"); scanf("%1f", &x1); printf(" Y座標:"); scanf("%1f", &x2); printf(" Y座標:"); scanf("%1f", &x2); ■ frexp, modf その他の例 ■ ldexp, fmod ■ .5 — double 型 0.5 を表す printf("距離は%fです。\n", dist(x1, y1, x2, y2)); ■ 12. — double 型 12.0 を表す return 0; 55 / 68 56 / 68 57 / 68 誤差を少なくするには 解説 繰り返しの制御 0.218 ヘッダのインクルード (数学関数用) List 7-12 (部分) コード悪例: 0.0 から 1.0 まで 0.01 単位で繰り返す 解決法: 実数値をループの制御には使わない; 整数値を使う float x; for (x = 0.0; x <= 1.0; x += 0.01) { #include <math.h> List 7-13: 繰り返し制御を整数で行う printf("x=%f\n", x); #include <stdio.h> sqrt: 平方根 (square root) 関数 int main(void) 出力 (Ubuntu 16.04, x86_64, cc) return sqrt((x2 - x1) * (x2 - x1) + (y2 - y1) * (y2 - y1));x=0.000000 float x: for (int i = 0; i <= 100; i++) { x=0.010000 略 x = i / 100.0;scanf での double 型データの読み込み x=0.989999 $printf("x = %f \n", x);$ x = 0.999999■ 注意点: %f ではなく%lf return 0; 困った現象: 100 回繰り返したけど 1.00 になっていない scanf("%lf", &x1); 理由: 誤差の蓄積 出力: 誤差の蓄積が生じない ■ 10 進数では 0.01 は切りのいい数値 ■ でもコンピュータ内部は2進数で数値を表現 ■ 2 進数では 0.01 は切りが良くない数値 (誤差あり) 僅かな誤差が蓄積 58 / 68 59 / 68 60 / 68

